



経営継承により新規就農した藤井ご夫妻

1

## 就農相談までの背景

就農前は佳彦氏はスポーツ関係、有未氏は農業法人でパート勤務をしていたが、コロナ禍をきっかけに転職を考えるようになった。有未氏が農業法人で勤務していたこともあり、**夫妻で一緒に働く職業の選択肢として「自営就農」に興味**をもった。

何から始めれば良いかわからなかったが、親戚が滋賀県にいたことから、「しがの農業経営・就農支援センター」（旧青年農業者等育成センター）主催の「就業相談フェア」に参加した。

2

2

## 相談内容

「就業相談フェア」に出展していた東近江市のブースにおいて、後継者不足の上岸本温室組合が産地の維持を図るために**新規就農の組合員を募集**しており、農業の継承をサポートする組織「なこーど」がその継承をサポートしているとの紹介を受け、夫妻での移住・就農を前向きに考えるようになった。

**県外から移住就農するために必要な生活面や技術面などの支援策**について相談したい。

3

## 支援内容

## ●「なこーど」での農業継承サポート

「なこーど」では、就農のイメージを具体化させるため、産地訪問を勧め、温室ハウスや選果場などの見学、上岸本温室組合員との交流を継続的に図った。また、お試し移住体験などを経て、空き家バンクや子育て支援策の紹介など、移住・就農が円滑に進むために市の関係部局を横断した柔軟な支援を行った。

就農専属スタッフは「なこーど」メンバーとして、**栽培品目のアドバイスや栽培技術指導など専門知識に基づいた支援**を行うとともに、全体のコーディネートを行った。



東近江市愛東湖東地域新規就農促進協議会「なこーど」の支援体制図

## 今後の意気込み

移住や新規就農は不安もありましたが、「なこーど」のサポートを受けて安心して農業を始めることができました。

まだ農業経営は手探り状態ではありますが、就農後も経営相談を通じて関係者の方に助けていただくこと多く、大変感謝しております。

## 概要

## ◆氏名・所在地

藤井 佳彦、藤井 有未 滋賀県東近江市

## ◆就農年

令和7年1月

## ◆経営規模

施設野菜（メロン、トマト） 0.2ha

## ◆従業員数

なし

## ◆事業内容

産地での第三者継承により、施設野菜（メロン、トマト）の栽培に取り組む。

2

2

## 相談内容

「就業相談フェア」に出展していた東近江市のブースにおいて、後継者不足の上岸本温室組合が産地の維持を図るために**新規就農の組合員を募集**しており、農業の継承をサポートする組織「なこーど」がその継承をサポートしているとの紹介を受け、夫妻での移住・就農を前向きに考えるようになった。

**県外から移住就農するために必要な生活面や技術面などの支援策**について相談したい。

3

## 支援内容

## ●経営継承元とのマッチング

複数回の産地訪問をする中で、**後継者のいない組合員からご夫妻への経営継承をマッチング**した。

継承先の組合員が元県指導農業士であり、研修先として相応しいと判断し、**ご夫妻ともに約2年間の研修を受けた後、経営継承**した。

資金の融資を受けるため、研修期間中から**就農専属スタッフが市と連携し、青年等就農計画の作成支援**を行った。



栽培管理作業の様子

## 専属スタッフ所感

県外からのご夫妻による移住就農でしたが、就農したい！という強い意志と「なこーど」での手厚い支援により、円滑な経営継承が実現しました。

県内産地では、生産者の高齢化に伴う第三者継承の事例の増加が予想されることから、本事例をモデルの一つとし、支援を行っていきます。



実践農場研修地で田中ご夫妻

## 概要

### ◆氏名・所在地

田中 豪・田中 絵美 京都府舞鶴市

### ◆研修開始年

令和4年8月～(舞鶴市先進農家)

令和6年1月～(実践農場開始)

### ◆研修内容

京都府農人材育成センターの就農インターンシップ事業を経て、担い手養成実践農場で独立就農を目指して研修に取り組んでいる。

1

## 就農相談までの背景

夫の豪氏はサラリーマン（サービス業）、妻の絵美さんはパート従業員をしていたが、農業への思いを募らせていた。話し合いの結果、退職を決意。

漠然と研修先を探す必要と考えたが、この時点では、栽培したい作物も定まっておらず、具体的に何から始めたらいよいかわからなかったため、京都府農業経営・就農支援センター（京都農林水産業ジョブカフェ、以下「支援センター」）へ相談した。

2

## 相談内容

農業経験がまったくないため、雇用研修から始めたいが、現在の仕事は退職してもやりたいと考えている。

**技術習得、資金、農地の確保など、就農準備の方法を具体的に知りたい。**

3

## 支援内容

### ●就農に向けた意思確認と研修先の決定

支援センターでは、一般的な就農の進め方、支援制度などを説明の上、まず、夫婦でもう一度、就農の意思を確認するよう促し、同じ舞鶴市で新規就農し、先進農家として研修生の指導経験もある農業者を紹介。面談の上、アドバイスを得るよう取り計らった。

主に地域の特産の万願寺甘とうを栽培する先進農家から、まず、早計に現在の仕事を辞めないようにアドバイス。週1日程度の研修に来てはどうかと薦められ、仕事を続けながら、研修をはじめることとなった。

### ●本格的な研修の開始

先進農家で研修を始めることはできたが、週1回程度の研修で本当に技術が身につき、就農が果たせるのか不安になり、再度、他に就農準備の方法はないか、支援センターに相談した。支援センターでは、就農に向けた意思を確かめる試行期間と考え、しばらく研修を続けること、少しでも資金を蓄えることをアドバイス。

熱心な研修態度が評価され、令和4年10月から、週6日に切り替わり、研修が本格化。さらに令和5年7月から支援センターは雇用研修先に「就農インターンシップ事業」を紹介し、6ヶ月間、研修を支援した。

### 今後の意気込み

農業に関して何もわからない所から、就農に向けた手順を丁寧にご教示いただき、一步を踏み出す事ができました。

今思えば、最初に先進農家を紹介していただいたことが、すべてのスタートになりました。今、実践農場でお世話になっている指導者も最初の研修先とつながりのある農業者です。農業をしていく上で人のつながりの大切さを感じています。今後はハウスの建設など様々な課題がでてきますが、引き続き、先輩方、関係機関の方々のアドバイスを得ながら克服していきたいです。

### ●関係機関との連携による取組

中丹東農業改良普及センターと舞鶴市、市農業委員会、京都府農業会議、研修を受け入れていた先進農家など関係者が連携し、田中氏の自宅に近い与保呂地域に研修農地と技術指導者、後見人（受入地域と研修生のパイプ役）を確保。京都府独自の制度である「担い手養成実践農場」（就農受入地域が指定する研修用農地で2年間の実践的な研修を行った後、その農地で経営を開始することができる制度）が設置され、令和6年1月から、独立就農に向けた実践的な研修に励んでいる。

**関係機関は連携して、独立後も定着と経営発展を支援していく。**



府の「担い手養成実践農場」パンフレット

### 専属スタッフ所感

先進農家で研修を始めたときは、先行きに不安を感じられたことでしょう。しかし、「ここが辛抱のしづき」とお仕事を続けながら資金づくりに励まれ、圃場では技術習得だけでなく、周辺農家との関係構築など、支援センターを信じ、アドバイスを忠実に実行していただいたことが成功の秘訣だと思っています。研修先を含め、地域の農家の信頼を得ることが何より大切だと知らされる事例です。

# 地域の関係機関が連携した ワンストップ体制による新規就農支援



繁光氏

## 概要

- ◆ 氏名・所在地  
繁光 一希 大阪府八尾市
- ◆ 就農年  
令和5年9月
- ◆ 経営規模  
いちご0.1ha 露地野菜0.6ha
- ◆ 従業員数  
パート1名
- ◆ 事業内容  
いちご・露地野菜の栽培に取り組む。

令和6年

自営就農

大阪府

1

## 就農相談までの背景

令和4年から、農業の勉強をするため、勤めていた大阪府の会社を退職し、滋賀県の農業法人にて雇用研修を受けていた。しかし、出身地である大阪府内で就農したいという思いが強く、栽培知識を学ぶだけでなく、大阪府で農業をされている先輩農家や、大阪府庁の職員、また自身と同じくこれから大阪府で就農しようとしている方々との出会いのきっかけにもなると考え、大阪府農業経営・就農支援センターに相談し、府内の就農塾「大阪産(もん)スタートアカデミー」に応募した。

2

## 相談内容

地元である大阪府で、都市近郊型の観光農園（収穫体験等）の実現をめざし、就農に必要な栽培技術の習得や、支援制度の活用等について相談したい。

3

## 支援内容

### ●大阪産(もん)スタートアカデミー

府内での就農をめざし、府とJAグループ大阪が主催する、農業者のもとでの実践的な栽培実習や外部講師等による座学など、農業経営者としての自立に向けた研修を実施した。

### ●関係機関との連携による取組

普及指導センター・市・JAで構成し、ワンストップで就農相談に対応する八尾市農地保全会議にて、農地の確保から、貸借の手続き、販路のあっせんに至るまで、総合的な支援を実施した。また、地域4Hクラブへの参加を働きかけた。



大阪産(もん)スタートアカデミーの様子

### ●資金及び機械導入等に係る支援

国の青年等就農資金を活用するとともに、経営発展支援事業により、いちご高設栽培システム等を導入した。また、事業の申請等に当たっては、就農5年目までの計画をまとめた「青年等就農計画」の策定について、普及指導センターを中心に、関係機関・団体が連携して支援した。

### ●生産技術習得に向けた支援

普及指導センター・JAで連携し、地域の特産物であるえだまめを中心に行なった巡回指導した。いちごについては、府主催の視察研修や環境モニタリング装置設置等によるスマート農業の実践を支援した。



経営発展支援事業により導入した高設栽培システム

### 今後の意気込み

収穫体験などを通じて、誰でも気軽に農業に触れることができ、農業に興味・関心を持つきっかけになるような農園を目指していきます。

また、私が支援してもらったように農業を始めたいと思った人が安心して農業の研修が受けられるよう雇用研修生を受け入れたいと思っています。

### 専属スタッフ所感

大阪府でも都市部に近い八尾市を就農地に選び、都市近郊農業の利点を活かした品目に挑戦されているなど、めざす農業経営に向けて着実に準備されたことがスムーズな就農に繋がったと感じます。

今後は生産技術の安定に向けて、普及指導センター等による継続的な支援が必要と考えます。

# 雇用就農から独立を目指す



淡路島たまねぎの生育を観察する脇本氏

1

## 就農相談までの背景

将来的に職業として農業をするためにどうしたらいいのか、どこに相談すればいいのかを探していたところ、兵庫県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）のホームページをみて、「ひょうご就農希望者向けセミナー・相談会」に参加したのが契機となった。

2

## 相談内容

自然農法の座学、実習の経験はあるものの、職業としての農業経営や栽培技術に関する知識がなかった。農業法人における雇用就農や将来、独立就農するために必要なこと、農業で生計を立てるために必要なこと等を教えてほしい。また、就農についての具体的なアドバイスがほしい。

3

## 支援内容

### ●就農に向けて、技術の習得や生活設計について相談対応

すぐに農業経営を開始することは、栽培技術と資金が不足していることから難しいことを理解してもらい、雇用就農しながら、農業経営や栽培技術を学ぶことが現実的であるなど、就農専属スタッフの経験に基づいた適切な情報提供・提案を行った。



ひょうご就農希望者向けセミナー・相談会における相談対応の様子

### ●雇用就農先の紹介

支援センターが、相談者に適した雇用先を選定及び紹介し、就職予定の農業法人と複数回面談した上で、雇用就農を決定した。

### ●関係機関との連携による取組

自宅からも比較的近かった農業法人に就職して、栽培技術取得等を行っている。農業経営者として自立することを目指し、日々努力して、独立就農に向けた準備を進めている。



雇用就農先で草刈りに精を出す脇本氏

### 今後の意気込み

紹介いただいた農業法人では、雇用就農後、独立就農に移行できるよう元普及指導員が在席しています。時間管理の重要性について説明を受けたり、機械作業ができるように免許取得を勧めていただいたりしており、ありがたい存在です。また、栽培管理などの作業方法について丁寧な助言もあり、農業経営に対するイメージが明確になります。

紹介いただいた支援センターの方とのご縁だと感謝しております。

### 専属スタッフ所感

相談者は精神面と体力面ともに不安を持たれていましたが、着実に技術を習得し、成長されていることを感じました。今回、相談者が希望されていた経営内容や勤務場所等と農業法人の希望が上手く合致しました。就農へ導くためには、インターンシップ研修など短期の研修を活用したマッチングが非常に重要であると考えております。

相談者は農業法人からの評価も高く、今後、関係機関と連携しながら、引き続きフォローしていきます。



イチゴの育苗作業をする小林氏

1

## 就農相談までの背景

前職では農業の技術指導や、企業での野菜の栽培管理をしていたが、「子育てと両立できる農業」・「障害のある人もない人も働ける場」を作りたいと考え、就農を考えようになった。そこで、就農希望地を管轄する奈良県農業経営・就農支援センターのサテライト窓口に相談した。

令和6年

自営就農

奈良県

3

## ●関係機関等の連携

就農後のビジョンが明確であり、また、農業技術を習得済みであったことから、早期の就農に向けた市・農地中間管理機構・普及指導員の連携体制を構築した。また、有望な農地が出てきた際に、相談者・市・農地中間管理機構・地権者・水利組合など就農にかかわる関係者が顔を合わせて話をする機会を設けた。

これにより、その後もこまめに連絡を取り合うことが可能となり、関係者間の認識にズレが生じたとき微調整を繰り返すことで、地域でも好印象となり就農がスムーズに進んだ。



栽培指導を受ける様子

### 今後の意気込み

就農に向けてこちらの事情を汲んで丁寧なアドバイスを頂けて有り難かったです。技術的に也有意義な議論ができ、毎回とても刺激を受けています。

知っていることと実践することの間には大きな差があると思いますが、お世話をなった関係機関の皆様の思いに応えられるよう、精進したいと思います。

## 概要

- ◆氏名・所在地  
小林 由布子 奈良県大和郡山市
- ◆就農年  
令和7年2月
- ◆経営規模  
イチゴ 0.09ha
- ◆従業員数  
なし
- ◆事業内容  
高設イチゴの栽培に取り組む。

2

## 相談内容

土地探しや農地を借りるための仕組み、就農認定のための制度、補助金、それらのための具体的な手続きや、就農までのスケジュールについて相談したい。また、引っ越ししてきて日が浅く、近隣の実情に疎いため、地域の栽培技術や就農のための情報がほしい。

## 支援内容

### ●生活面の相談対応

未就学児と小学生の子育て中であるため、「子育てと両立できる規格・作業時間の農業を」と普及指導センターと市担当者が意識し、青年等就農計画の作成をサポートした。

### ●地域とのつながりの醸成

地域の農業青年クラブを紹介し、農業青年クラブ主催の研修会やクラブ員の圃場見学に参加してもらうことで、地域の生産者とのつながり作りを支援した。地域の生産者のつながりができるこそ聞ける、地域の気候や直売所に関する情報の収集に繋がった。



就農認定会議の様子

### 専属スタッフ所感

相談者は、既に農業技術に関して豊富な知識があり、さらには栽培管理の経験もある方でした。

また、経営の計画を綿密に立てた上で相談に来られたので、子育てとのバランスを考えながら、無理なく営農を続けられることを意識して青年等就農計画の作成を支援しました。

将来的には農福連携も考えられており、地域の農業・社会の発展が期待されます。

今後も伴走支援を通じて引き続きサポートしていきます。



野菜の播種実習中のA氏

1

## 就農相談までの背景

長年勤める会社の同僚が実家の農作業の手伝いへ行く際に、何度か連れて行ってもらうことがあったが、**繰り返し行っているうちに農業に興味が出てきた。**

当初は、定年退職後の就農を考えていたが、**早期に農業の知識と技術を習得し就農するほうが良い**と思うようになり、農業技術や就農支援等について相談できる場所を探していたところ、和歌山県の就農相談会を知った。

## 概要

### ◆氏名・所在地

A氏 和歌山県和歌山市

### ◆研修開始年

令和6年10月

### ◆研修内容

和歌山県農林大学校就農支援センター（以下「就農支援センター」という。）にて、農業技術や知識の基礎を学べる4ヶ月のうち全10日間の研修に取り組む。

2

## 相談内容

これまで農業は手伝い程度しかしたことがなかったため、和歌山県が主催する**就農相談会に参加し、「わかやま農業経営・就農支援サポートセンター」の相談ブースにて、農業の技術及び知識が学べる研修機関における就農にあたっての県等の研修制度、就農支援施策、就農予定地やその周辺での栽培品目等について、相談した。**

3

## 支援内容

### ●研修機関等の紹介

県の研修機関として、県内各地の**産地受入協議会**や**就農支援センター**を紹介し、各研修機関で行われているカリキュラムを説明した。

あわせて、就農するにあたっての**県等の支援策**を紹介し、また、就農をする段階では地域の情報が必要となるため、就農が近づいてきた際には改めて市町村へ相談するよう助言した。

### ●研修機関等の提案

相談内容から、会社勤めをしながら農業に関する知識や技術の基礎を学ぶことができる、就農支援センターの「**「ウィークエンド農業塾（第2班）**」を勧めた。

研修は**4か月間で全10日**行われ、野菜・花き・果樹の栽培方法や、土壤肥料と施肥管理、病害虫の防除と農薬の安全使用、鳥獣害対策等を**講義と実習形式**で、初步的な内容を学ぶもの。

相談者の就農の意向や研修と仕事の両立を考慮した上で、申込みの時期や方法等を説明した。



就農相談会での相談ブースの様子



就農支援センターでの研修の様子（A氏と他研修生）

### 今後の意気込み

就農相談会に参加し、また、「**ウィークエンド農業塾**」を受講したことで、就農への意欲が増しました！

早期の就農に向けて、本格的な技術や知識を習得するため、来年度はより実践的な研修を受講したいと思います！

### 専属スタッフ所感

就農相談に来る方は「農業未経験」または「体験程度」が大半ですが、相談者は、ご自身で積極的に情報収集をしながら、就農に向けたイメージを明確に持たれていました。

研修が終了し、来年度開催予定のより実践的な研修を受講される意向があるため、引き続いてフォローをしていきます。